

川本 武史（かわもと たけし）

私は愛知県瀬戸市に生を受け、豊川高等学校を経て中京大学へ進学し、その後トヨタ自動車株式会社に入社いたしました。幼少期より競技水泳に取り組み、約25年にわたり研鑽を積んでまいりました。その結果、東京オリンピック競技大会において100メートルバタフライ種目の日本代表として出場するという、かけがえのない経験を得ることができました。

瀬戸市、愛知県、そして日本を代表し、世界のトップアスリートと同じ舞台上で競い合えたことは、私の人生における大きな誇りであり、同時に、これまで支えてくださった地元の皆様への深い感謝の念を強く抱く契機ともなりました。

このたび、アジア大会が私の生まれ育った愛知県において開催されると伺い、長年育てていただいた地元へ何らかの形で恩返しをしたいとの思いから、聖火ランナーに応募させていただきました。本大会が多くの方々の記憶に残る意義深いものとなるよう、微力ではございますが、その一助を担うことができましたら幸いです。

山田 美諭（やまだ みゆ）

私は愛知県瀬戸市で生まれ育ち、実家の空手道場で3歳から空手を始めました。蹴り技を得意としていた私に、父が勧めてくれたことをきっかけに、中学1年生からテコンドーへ転向しました。高校卒業後は上京し、大東文化大学で競技を続け、現在も仕事と両立しながら挑戦を続けています。2020年東京オリンピックでは日本代表として出場しましたが、新型コロナウイルスの影響により無観客での開催となりました。だからこそ、地元・愛知でアジア競技大会が開催されると知ったときから、特別な想いを抱いています。思い出が詰まった瀬戸の街で、いつも応援して下さる皆さまへの感謝の気持ちを胸に、最後まで全力で走り抜きたいと思えます。

大島 健吾（おおしま けんご）

私は生まれつき左足首から先がなく、パラ陸上競技アスリートとして活動しています。

地元瀬戸市で、幼少期よりスポーツに親しみ、高校時代はラグビー部に所属、日常生活用の義足でプレーをしていました。高校2年次にパラアスリート発掘イベントで競技用義足を体験したことがきっかけで大学入学後に陸上競技を本格的に始めました。パラ陸上(T64クラス)選手として、東京2020、パリ2024パラリンピックに出場し、東京2020では混合4×100mユニバーサルリレー第2走者として銅メダルを獲得できました。地元の皆さまの温かい応援が大きな励みとなったことを覚えています。小中学校への訪問授業や学童支援スタッフとして接してきた子どもたちにも幾度となく励まされ勇気づけられました。

聖火ランナーとして走ることで、愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会を盛り上げ、スポーツの持つ前向きな力をお届けするとともに、皆さまへの感謝の気持ちをお伝えできればと思います。